

## 令和2年度 第1回 米子市文化財保護審議会 概要

■日 時：令和2年10月30日（水曜日）午後1時から午後4時まで

■場 所：埋蔵文化財センター 2階研修室

■出席者：〔委員〕田中秀明(委員長)、神谷 要(副委員長)、浅井秀子、金澤雄記、喜多村  
理子、鷺見寛幸、常松喜恵子、山道俊哉  
〔事務局〕下高課長、中原文化財調査官、佐伯担当課長補佐

### 議 事

#### (1) 米子市指定文化財(有形文化財)の新規指定について

〔諮問書手交、文面読み上げ〕

事務局：新規指定候補物件の内容についてご説明いたします。1件目は貴布禰神社石造唐獅子、附奉納札、2件目が桃形兜です。この2件についてご審議をお願いします。資料3は石造唐獅子です。名称はこれでよろしいでしょうか。指定理由は県の基準を準用しましたが、我が市の絵画・彫刻史上特に意義のある資料とするもの。資料4・5に写真を付けております。これは以前の保護審議会で、委員の皆様には現物を見て頂いております。資料6は奉納札です。一般的には狛犬と称されるものですが、神社の記録では唐獅子とされていますので、この名称でよいでしょうか。特徴は髪形と尻尾にあります。この地域で多い出雲型とは異なるもので、他の地域の特徴とも違うということで、この地域独特のものではないかと思われま。台座、盤座とも言いますが、これは別造りで、他の狛犬とは違う技法で造られています。天明4歳(年)という年号が彫られております。こうした記年銘がある狛犬としては県内最古のものとなります。材質は角礫凝灰岩で戸上あたりの地元の石材で、地元の石工が何らかの情報に基づいて製作した唐獅子ではないかと思えます。これを裏付けるものとして奉納札があります。これにも天明4年とあり、裏に施主の名前があります。これは台座にも彫られております。唐獅子については以上です。

続きまして、桃形兜です。これは工芸品としての指定で、名称は「桃形兜(ももなりかぶと)」と致します。これは米子市に寄贈されたもので、山陰歴史館が文化財の所在地になります。これは現物を用意しております。桃形兜は、戦国時代に登場した変わり兜で、西日本で流行したものです。この兜は、尼子毛利の戦いで活躍した毛利元就の二男、吉川元春が宗形神社に奉納したと伝えられておりました。兜鉢は4枚の鉄板を繋ぎ合わせて下に腰巻板を繋ぎ合わせています。これは桃形兜の中でも時代が下る特徴と言われています。庇の上に一本の釘のようなものが立っていますが、本来ここには前立という飾りが付いたはずですが、現在で

は失われています。また、鍔(しころ)という首を守る板が5枚、紐で綴られています。肩に当たる部分はカーブする刳り込みが付けられています。これは「日根野鍔」と言いまして、この時代に特有のもので。鍔は黒漆塗りですが、鉢の部分は茶色を呈しています。こうした特徴からこの兜は安土桃山時代の終わりころから江戸時代初頭に製作されたものと考えられまして、後世の改変をほとんど受けておりません。製作当初の姿をよく留めていることと、桃形の兜として価値の高いものと考えております。緘の紐が劣化しているので裏側を見ることが難しくなっています。それでは現物をご覧ください。金箔押しの兜が多いのですが、この上に透明な漆を掛けて飴色に仕上げています。この塗りを白檀塗りと言います。吉川元春所用とありますが、時代が合わない。神社の伝承では、米子城に在城した吉川元春から寄進されたとあるので、元春の息子の広家の可能性もあるのかと思います。

〔この他、今後指定の可能性のある長砂経塚、中山経塚出土資料と、現在調査中の百塚88号墳出土資料について説明。〕

委員：この唐獅子は、年代的には古いものなんですね。

委員：阿形は顎が欠損しているようですが、修理して付けることは可能ですか。

事務局：上顎は外れていますが、これは神社で保管して頂いています。下顎は失われていて現存しません。修理の方法についてはこれからご相談しますが、外れた破片についても合わせて指定したいと思います。

委員：実は淀江の日吉神社でもよく似た狛犬の盤座がありました。ここで出てくるとは思いませんでした。

事務局：元々狛犬は屋内の小型で木製のものであったのが、参道に出て行って大型化するという変遷をとります。ちょうどその過渡期のものと思います。先ほど言われた盤座の技法があるとすれば、このあたりの地元の石工の製作ではないかと思いません。その材質は、来待石ですか。

委員：来待石がどうかは分かりませんが、そのような資料がありました。

事務局：石工についても調べています。貴布禰神社には、少し時代が下りますが戸上石工武助という名前が出てきます。すぐ隣の梅翁寺には天明4年のものがありまして、それが戸上と読めるかわかりませんが、三之丞という名前があります。年代が同じなので、同じ石工の作かも知れません。

委員：戸上には、石切場はあるのでしょうか。

事務局：以前、狛犬の調査をされた永井先生の話では、石切場も確認したとされているので、地元産の石で間違いないと思います。

委員：少し気になるんですが、この狛犬は市の指定ですが、今後それ以上に上がることは有りますか。写真を見ると台座の修理がしてあるのが分かりますが、こうした物件は修理の仕方によっても指定がかかる、かからないというのがあると思いま

すので、今後きちんと修理された方が良いのではと思います。

事務局：今までは粗い修理がしてあります。曲がった状態で石をモルタルやコンクリートで固めていますので、今後これをもう少しいい形にしなければと思います。

委員：次に桃形兜について、宗形神社には、このほかにも寄進されたものがありますか。

事務局：万延元年の記録では、刀も二振りあったということです。ただ、戦時中に供出されたという話です。神社も火事にあたり、建て替える際に古文書を処分されたりしたことがあったそうです。棟札はたくさん残っていますので、今後調査すれば新たなことが分かるかも知れません。ただし、桃形兜については兜だけ単独で流通しているようで、必ずしも具足がセットであるわけではないそうです。

委員：それではこの2件につきまして、新たな文化財に指定することで答申してもよろしいでしょうか。それでは、この2件について、指定することで答申します。

事務局：今後の流れですが、本日、答申を頂きましたので、10月23日に予定されております教育委員会で承認を受けて、告示を経て正式な指定となります。

## 報 告

### (1) 令和2年度（上半期）文化財保護事業実施状況について

事務局：〔報告内容は資料参照〕

委員：コウノトリの生態について解説。

委員：セントロマントロについて解説。

委員：文化財保存活用地域計画について津山市の事例を紹介。米子市でも文化財の悉皆的な調査を行うのか質問。

事務局：鳥取市が歴史文化基本構想を進めて悉皆的な調査をしていますが、米子市は「よなごの宝88選」という取り組みがありましたので、そのデータ等を活用します。

委員：文化財のリストがあれば災害の時に活用できます。

委員：市民ボランティアを活用するためには活動拠点の施設が必要です。歴史館は活動拠点になりえるので、ぜひ整備をお願いしたい。

事務局：歴史館がひとつの中心にならなければと思います。そのためにも歴史館機能を充実させなければならないと思います。

委員：サウンディングの話では、歴史館機能が縮小とありますので心配しております。

### (2) 令和2年度（下半期）文化財保護事業実施計画について

事務局：〔報告内容は資料参照〕